

発行者／青森県中小企業家同友会 〒030-0931 青森市平新田字森越 12-28-2F
TEL017(752)0171 FAX017(752)0170 URL/http://aomori.doyu.jp/ E-mail/info@aomori.doyu.jp

第51回 青年経営者全国交流会 in 広島

われわれ青年経営者で、次代に誇れる豊かな世界を創ろう!

≪ 2023.9.14-15 青森同友会参加 20名 ≫

===== 感想文 =====

➤ (株)HASSEN 代表取締役 長谷川 公陽 氏

この度、青全交 in 広島に経営指針を創る会のプログラムの一環で参加させていただきました。

全国大会参加は今回が初めてで、個人的にも初めての広島でした。参加人数 2,000 名を超える参加者が集まっていたようで驚きました。分科会では経営指針の重要性や活用方法や、報告者のこれまでの経験と経営指針作成後の経営実践報告を聞かせていただきました。報告者の熱い想いで会場は熱気に包まれていて、多くの刺激と気づきがありました。記念講演では被爆の怖さや、経営する中で失敗から成功までの道の話など、これからの私達に向けたエールをいただきました。どの講演も経営者の思いと社員さんとの関係性が結びついて成り立っている、ということに気づきを得ました。この三日間で学んだ事、体験した事を上手く活用して、これからの指針書創りをしていきたいと思ひます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

➤ 高進機工(株) 代表取締役 寺澤 憲司 氏

私は第 18 分科会に参加しました。発表者は兵庫同友会の(株)青粒 代表取締役の永原豊大さん(40)。家業はモロヘイヤを原料にした青粒の製造販売で最盛期には 20 億円の売上が有りました。その営業力を生かして健康食品の販売、モロヘイヤの栽培、製造などと設備投資を重ね売上増を目指しましたが、売上は上がるどころか下がるのが数年続きました。結局売上は戻らず、止む無く人員削減、給与減額などの対策をするも赤字経営は直らない状態で創業者から無理やり経営を任されること

になったそうです。人員削減、給与カットはものすごくエネルギーを使うことで、嫌になったそうです。いきなり経営を任されて途方に暮れている時に同友会の先輩方に経営指針創りを勧められたそうです。

指針創りでは創業者の想いを知らなければいけない。何故この商売を選んだのか?それには祖母の健康志向が源にあり、それが両親に受け継がれ、自分ばかりでなく多くの人々に健康になってほしいとの想いが理念に出なければいけないと助言を受け、なんとか指針書を完成させたそうです。しかし中々経営は上向かず、愚痴をこぼしていると、その日の懇親会で吊り上げられる事になったといひます。【同友会で何を学んだ】と苦言を言われ悩んで悩んだ結果、子会社を統合し会社の縮小を図り、売上は減ったものの固定費が減少して経営上は黒字に戻りましたが、何か足りないと感じて社員と相談してお客様訪問をする事にしたそうです。何件か訪問をして話を聞いてみると、青粒に助けられた、おかげで健康になれた、今後も作り続けてほしい等、生の声を聴く事ができ、創業者の想いをお客様から教えてもらう事ができ、自社の商品が本当に必要とされている事を知ったそうです。題目にある【本当の事業承継】は渡す方も受け継ぐ方も創業時の想いをきちんと伝え、理解納得してからでない承継は上手くいかない。また社員さんの声をよく聞き、なぜこの会社が社会に必要とされているのか、本質を共に共有すればより良い経営を創りだせると思ひました。

➤ プロジェクトおおわに事業協同組合

常務理事 渋谷 敏志 氏

今回「経営指針を創る会」のカリキュラム第5講として青全交 in 広島に参加させていただきました。

初日の19見学分科会では、今年の定時総会で報告

された(株)EVENTOSの川中社長の報告を、もう一度聴きたくて申し込みましたが、前回以上に事業展開や地域貢献への取り組みが発展しており、そして店舗で社員の方々が元気で楽しそうに仕事をしている姿に一番衝撃を受けました。

2日目の全体会では、「ヒロシマからのメッセージ」と題して原爆と戦争がもたらしたお話を川野登美子様よりご報告いただき、戦争の愚かさや世界平和の必要性を再認識させられました。

次に(株)八天堂の森光孝雅社長の記念講演では、事業が低迷し、どん底の中での気づきや付加価値を付ける商品開発、そして覚悟を決めて自己変革を成しえたお話を聴き、私自身もっと強い思いと覚悟をもって自社の経営に取り組まなければならないと改めて感じました。

今回学んだことや気づきを「経営指針を創る会」でもっと深め、経営理念やビジョンに反映できるよう取り組み、また自社で早速できるところを進めます。

初めての広島訪問で少し気持ちがソワソワしていましたが、その気持ちがすぐに切り替わる程初日からたくさんの刺激を受け、そしてたくさんの仲間とのご縁をいただきました。今回の青全交参加にあたり準備や連絡等、いろいろと面倒なことを行っていたいただいた方々に心から感謝申し上げます。自分自身にとって、自社にとって、本当に参加して良かったです。ありがとうございました。



➤ 青森県中小企業家同友会 主任 松田 康太郎

私は第3分科会に参加し、ビジョン経営の実践について学びました。「一番広い会場で一番最初に満員にする！」報告者の太田さんは実行委員会が立ち上がった際、明確にビジョンを掲げました。その為に、①目的を明確にし②ビジョンを描き③宣言して④行動しました。結果、当日は一番広い会場で満員の参加者でした。報告の中で、「ビジョンを持つことは大事だが、伝える事でビジョンは叶う。」と言った内容がありました。ビジョンは一人で持つものではなく、社員や地域をまき込み、共感してもらう事で意味を成すと学びました。

グループ討論では、各社のビジョンに対する取組や、課題について討論しました。「強い経営者は経営指針を実践し続けている」という話題になり、経営指針を受講したが、実践は出来ていない。幹部クラスまでの浸透に時間がかかったが、社員まで落とし込む必要性について話し合いました。「手段」ではなく「目的」、「やり方」ではなく「在り方」の再確認等、熱い

議論が交わされました。2日目の特別報告では、講師の川口さん自身の被爆体験、被爆した兄の無残な死、佐々木貞子さんとクラスメートになり、運動会のリレーで毎日バトンを渡す練習をし、優勝したこと。小学校を卒業してもずっと仲良くしようということで「団結の会」を作ったこと。戦争の愚かさ、平和の尊さを改めて自らの被爆体験をもとにお話いただきました。実際の戦争体験者からこのようなお話が聞けたのは貴重な機会でした。続いての記念講演講師の森光氏。「祖父の代から続く和菓子・洋菓子店を受け継ぎ、1991年、26歳の時にパン屋を開業。順調に売上を伸ばし、県内に13店舗を出店。しかし、無理な拡大から人も離れていき倒産の危機に。どん底の中で気付いたのは「他責になっていた自分」とパンフレットに記載がありましたが、森光氏の講演で話したことの大半は、経営理念や使命感の大切さであり、自分がそのことに気付かされるまでの苦闘し続けた人生体験でした。想いがあれば何でもできる。決して一人で行わず、他社他人を巻き込む。何の為にするのか、手段ビジョンを明確的にすることの大切さを学びました。



北海道・東北ブロック支部長・ 地区会長交流会 in 山形

(青森同友会参加 9 名)

記/ (有)松竹梅造園 代表取締役 渡辺 精一 氏

★★★ 感想文 ★★★

「ワクワク」「ドキドキ」する会社を目指す!!

一日目。出席者の私、組織委員長にふさわしい山形同友会の組織強化と支部づくりの報告でした。支部長・理事などの役職をとかれることで同友会を離れる人が多い。その一番、同友会を知っている人に語り部になってもらうことで組織委員会活動に協力してもらい、会員増強と組織の強化につなげる。

二日目。スズキハイテック(株)鈴木社長の報告。めっき(メッキ)というところをブレない。伝統企業、創業 101 年目の改革。それまでの受注型から開発主導型に転換しなければ、会社が回復する活路はなく、受注に頼るのではなく、商品を開発し、自ら営業に行くこと。さらに、次の 100 年を考えたとき、社員と仕事をする中で気風を変えたかったとのこと。その勇気と情熱が世界で同社しか創れない商品ができた。話を聞いていて私の心は「ワクワク」「ドキドキ」しっぱなしでした。私の心の内にある「なまけ」「怖れ」「自分を守る」といった弱さに打ち克ち挑戦することが私に求められる聞いたと今回の山形での学び、気づきに感謝し、実践します。



八戸支部9月例会

人生をあきらめない、
夢はここからはじまる
～ 人生が輝く、新しい共生のカタチ ～



◆報告者◆

(株)池田介護研究所

代表取締役

池田 右文 氏 (八戸支部)

(2023/9/26 参加 17 名)

★★★ 感想文 ★★★

「夢の考え方」

今回、池田さんの報告を聞いて、地域の課題や望まれていることのために、積極的に行動して挑戦することの大切さを学びました。現在いろいろなことに取り組まれています、それは結果として形になったもので、実際はもっとたくさんのことをやってきたことを知りました。

グループ討論では、夢を応援できる企業づくりについて話し合い、社員さんは夢を聞かれるのが困る、という意見や、夢は持っていないといけなの、聞かないといけなの、などいろいろな意見がありました。社員さんは安心した生活と、楽しく嬉しいことややりがい会社を求めているということを知り、楽しさの社内共有が必要だということを知りました。

夢について多様な考えや捉え方があるので、共有してみんなで行動することが大事だと思いました。ありがとうございました。

記/ 下沢食品(株) 代表取締役 下沢 宇寛 氏



女性部会全県例会

「チャンスをつばわらない」
その先に私が得たもの。

～ 子育て、仕事、パートナー ～



◆報告者◆

(株)FPパートナー

青森支社 ハ戸オフィス

オフィスマネージャー

田中 里華 氏 (ハ戸支部)

(2023/9/27 参加 20 名)

☆☆☆ 感想文 ☆☆☆

9月女性部例会は県内各地から20名の会員さんが久しぶりにホテル青森に集結しての、和やかな例会となりました。

田中さんとは、ハ戸支部で一緒に過ごす機会が多いのですが、改めて報告を聞かせていただき、ますます彼女のファンになってしまいました。

仕事でも家庭でも人生には様々な問題や課題があるものですが、報告を通して感動したのは、彼女が娘さんやパートナー、一緒に働く仲間に対して真剣に向き合う姿勢のすばらしさです。それは、関わるすべての人に対しても同じで、どんな困難な状況においても1%でも可能性があれば信じて諦めないこと。いつも相手が輝く場所を全力で見つけてあげる姿勢です。

子育てと社員共育は共通点が多く、相手を信じてチャンスを与えてあげることが人生にとって素晴らしい事だと気づかせていただきました。

彼女が仕事でもプライベートでもチャンスを見逃すことなく、前向きに取り組む姿勢は私たちに勇気を与えてくれます。このような姿勢を持つことができれば、自分や周りの人も幸せにすることができるのではないのでしょうか。とても心に響く例会でした。ありがとうございました。

記/ (株)菓子卸センター坂下商店

代表取締役 坂下 静香 氏



下北支部ランチ例会



(2023/9/28 参加 11 名)

☆☆☆ 感想文 ☆☆☆

物価高騰に伴い様々なところで影響が出ていることが挙げられた。その一つは商品の入荷価格が高騰したことで、結果利益との比較をすると利幅が少ない状況にあることや職業の違いはあるものの消費者に対する納得のいく説明の難しさに共感する意見も多く見られた。また、宿泊業においては、これまでのような価格では到底対応できない程、食材などが高騰している現状から朝食や宴会代金を上げざるを得ない厳しい状況であることも報告された。また、現在むつ市内は原発関連で宿泊は満室状態とは言え、一方で様々なイベントや大会なども計画されているため、客室不足が深刻で「むつ市に行っても泊まる場所がない・・・」など、マイナスイメージが出ている。来年はむつ市において「下北ジオパーク全国大会」が開催される。また、2026年には「国体青森県大会」の一部競技も当地で開催予定である。今後の宿泊対応の難しさが大きな課題だと感じた。

記/ グリーン観光産業(株) 常務取締役 庭田 良二 氏

青年部会&上十三支部 合同例会



(2023/9/28 参加 19 名)

「行こうよ、全国行事 2023Ver.2」

～ 6月女全交、9月青全交、10月障全交 ～

☆☆☆ 感想文 ☆☆☆

今回、なかなか行く事ができない全国行事の話聞くという事で、青全交へ参加された4名の方の報告を聞き大変、貴重な体験となりました。青全交の「主体者であれ」のテーマを聞いて「主体者としての行動を社内でしている社員は何人いるのか？主体性を持った仕事とは？」報告を聞きながら色々と考えさせられる内容でした。今回、青年部会やハ戸支部の方々にもお会い出来て大変勉強になりました。機会があれば全国行事にも参加してみたいと思います。

記/ (有)ダスキン三沢 柿崎 啓一 氏

八戸支部10月例会

ケース研修と

不安定な経営環境における会社経営、
まちづくりへのアプローチの仕方

～多様な視点から正しい意思決定を導こうとするときに～



◆報告者◆

(有)淡路会計事務所

代表取締役

淡路 俊彦 氏 (八戸支部)

(2023/10/10 参加 19名)

★★★ 感想文 ★★★

「多角的な情報検証に基づく問題認識は、
精度の高い意思決定を導く」

「青森県の今後10年の人口推計」という目を背けたくなるデータから始まった(有)淡路会計事務所・代表取締役の淡路俊彦さんのご報告は、終始、私を含めた若い世代への愛ある檄のように感じました。

今回の報告ではケーススタディが全体の3分の1を占めました。架空の会社の経営課題の解決策をグループで検討するケーススタディでは、先輩経営者の方々の思考プロセスに直に触れることができ、大変貴重な経験となりました。これを通して、正しい情報・論理・データに基づくことが意思決定の正確性向上に直結することも実感しました。

今後10年の青森県の人口減少率は、47都道府県で秋田県に次ぐ2番目です。ともすれば、多くの会社が経営難に陥ります。終盤で淡路さんは「縮小していく市場では(県)外の情報の獲得が必要」と警鐘を鳴らしました。地域や業種に捉われない多角的な視野を意識し、私も今後の青森県を守る経営者の一翼を担えればとの思いです。

記/ さくらアカデミー 八戸湊高台教室

代表 高橋 悠木 氏



青森支部ガイダンス

企業のためのSNS講座～初級編～

全て SNS で解決します！

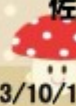
◆報告者◆

(株)vimvery (青森支部)

代表取締役 二木 久美子 氏

デザインスタジオ AGORA (青森市)

佐々木 雅美 氏



(2023/10/12 参加 27名)

★★★ 感想文 ★★★

「今後自社で活かしたいこと」

青森支部10月ガイダンスに参加して、SNSを活用した様々な発信について学ぶことが出来ました。弊社においては、事業を進めていく上で紙媒体での販促が多く、SNSの活用には程遠いものと痛感しています。

報告・ワークにおいては、今後「ファンがつくかどうかは共感の時代」や「お客様は売れば【誰でも良い】ではなく【誰に売るか】(ペルソナ)」などが強く印象に残りました。共感していただくには、お客様目線での情報提供が第一と考えましたが、お客様目線での情報提供方法に悩み、お客様が何を求めているのかの理解・調査していく事が重要な課題であると感じました。

今後、弊社もSNSチームを発足させ、SNS活用を実現する為にも今回のガイダンスを思い出し情報発信においては、目指す方向性や目的をしっかりと明確にし進めていきたいと思います。

記/ (株)トヨタレンタリース青森 店表 榎本 亮佑 氏



第22回 経営研究集会

今年度の研究集会は八戸での開催です！今回は他県同友会からも多く参加を頂いています！是非、懇親会まで参加お待ちしております！ゲスト様もお誘いあわせの上、ご参加下さい！

締切り
迫る！

青森県中小企業家同友会



▲講師
あつき まさこ
甲木 正子氏
西日本新聞社
執行役員北九州本社代表

企業永続のカギは多様性
～ビジネスモデルとジェンダーは今、大転換のとき～
新聞業界は、発行部数減少で明治以来約五十年続いたレジ
スモデルの危機を迎えています。そうした中で甲木氏が執行役
員を務める西日本新聞社では多様な事業展開で新聞の売上減を
カバーしています。甲木氏は新聞社という男社会の中で結婚、育
児、キャリアアップを断続し、その時々で道なき道を切り拓いて
きました。職業人として、多様性として「多様性」の大切さを痛
感した経験から、未来永続的企業への挑戦について語ってい
ただきます。

第二十二回
経営研究集会
in 八戸

〒030-0170 青森県八戸市
八戸市北橋1丁目6-308
TEL 0178-44-3121



日時 11月9日(木) 14:00 開会
受付/13:30～ 基調講演/14:00～ 分科会/15:30～
懇親会/18:45～ 閉会/20:15
場所 八戸プラザホテル アーバンホール
(八戸市北橋1丁目6-308 TEL 0178-44-3121)
参加費 10,000 円 (懇親会費含む)
3,000 円 (講演会・分科会のみ参加)

※【参加申込書】11/1(水)が切です。※11/2(木)以降のキャンセルはお受けできませんので、その際は代理出席をお願いします。

参加者氏名	役職
会社名	
中参加される各項目に「○」印をお願いします。	
★基調講演 (参加・欠席)	
★参加分科会 (1・2・欠席)	
★懇親会 (参加・欠席)	

お申込みは
FAX または **e.doyu** または **メール** で!!
FAX 017-752-0170
http://aomori.doyu.jp
Mail info@aomori.doyu.jp

2 分科会

先代からの「人を生かす経営」への想いをDXで未来につなぐ
～社員が主体になって働いた「こえるオフィス」はこうして実現できた～
小さな成功体験の積み重ねが組織の成長を促します。そのためのツ
ールとしてDX(デジタルトランスフォーメーション)を進める啓
蒙プロジェクト(株)の取り組みをご紹介します。

＜報告者略歴＞
西手島出身。大学卒業後、大手通信会社へ入社。ネットワーク構築やセ
ラー講師として活躍した後、転勤を経て啓蒙プロジェクト(株)へ入社。
現場での経験を活かして社内のDX推進に取り組む。

＜企業概要＞
設立～1987年。従業員数～45名。年商～8億円。事業内容～設備設備施工・
修理・保守・社員研修受託等。URL～https://www.ars.co.jp



西郷を乗り越えてW字回復
～初志貫徹～
東洋の復興、コロナ禍と大きな危機に直面しながらも社員の人生と地域の未来
に全力で向き合う。若き三代目の奮闘と同友会での出会いが新たな経営者とし
ての覚悟を告げた。お話を伺います。

＜報告者略歴＞
1985年広島県尾道市出身。大学卒業後、大手不動産会社に勤務した後、事業である
大平交通(株)を継ぐため帰郷。2022年1月に三代目として代表取締役就任。若き
西郷は「一度きりの人生やりたいたい」と思う。

＜企業概要＞
創業～1959年。年商～1億8,500万円。従業員数～51名。事業内容～タク
シー事業・貸切バス事業・貸出バス事業・旅行事業



日時 2023年11月9日(木)

場所 八戸プラザホテル

アーバンホール
(八戸市北橋1丁目6-308)

参加費 10,000円 (懇親会費含む)

3,000円 (講演会・分科会のみ参加)

※参加費は当日会場にて申し受けます。

講師 西日本新聞社

執行役員北九州本社代表

甲木 正子(あつき まさこ) 氏

テーマ 企業永続のカギは多様性

～ビジネスモデルとジェンダーは今、大転換のとき～

切 11/1(水)

※11/2(木)以降のキャンセルはお受けできません
ので、その際は代理出席をお願いします。

10月理事会報告

於:事務局 2023.10.2(月)

1)年度方針の確認

●青森同友会2023年度重点活動方針

●青森同友会3カ年ビジョン(2023～2025)

2)報告事項

●青森同友会の各支部・全県事業と全国行事について

●第20期経営指針を創る会について

3)審議・確認事項

●第22回経営研究集会について

●全県行事の開催計画策定について

●第22回障害者問題全国交流会in愛知について

●第23回障害者問題全国交流会in青森について

●年度会勢目標に向けての取り組みについて

●各支部・委員会からの報告

会員数 418 名/入会 0 社 退会 0 社

【次回開催日】2023年11月2日(木) 13:30～/事務局